

香川労災病院

原 田 英 雄

昭和28年以来の県民一体となった誘致運動が実を結び、丸亀市に当院を設置することが昭和30年に決定されました。昭和31年4月、内科、外科、整形外科の3診療科(40床)で診療を開始し、34年12月に眼科を加えた4診療科、202床の病院としてスタートしました。その後、増床・造設を重ねて診療機能の充実を図ってきましたが、平成3年9月、診療機能の飛躍的發展を目指して全面増改築工事に着手し、平成8年8月に診療棟(7階)が、翌9年3月に管理棟(3階)が竣工しました。高度医療の実現に向けて、この機会に最新の機器・設備を導入しました。現在394床、16診療科(内科、外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、脳神経外科、泌尿器科、神経内科、精神科、循環器科、形成外科、産婦人科、歯科口腔外科)で診療を行っております。

当院の使命は労災疾病を中心とする職業関連疾患の予防、検診、治療、リハビリテーション、在宅医療です。これが、われわれに課せられた政策医療で、約半数の医師が産業医の資格を取得しております。しかし一方では、これまでお世話になった地域住民の要望にもお応えする責任があり、地域医療に対する貢献も重視しております。これら両輪の使命を達成するために、以下の理念を掲げております。①生命の尊厳と人間愛を基本に医療水準の向上と安全の確保に努める、②人びとの健康とあわせのために利用しやすいサービスを志向する、③患者中心の医療を堅持し、病む人の側に立つ医療を行う、④公平で親しまれるサービスを提供し、勤労者・地域住民

の方々の満足が得られるように努める。

政策医療の中心は、①勤労者メンタルヘルスの推進と「心の電話相談」、②振動病センターとしての活動推進、③潜水病、ガス中毒、突発性難聴などに対する高圧治療施設の活用、④職場への出張健診(二次予防)や有害物質等取扱い者の特殊検診に加えて、新設された予防医療部(一次医療)の活動推進、⑤勤労者の早期かつ適切な社会復帰に向けてのリハビリテーション活動の推進、⑥突発的な職場事故や災害に常時対応できる救命・救急医療の推進、⑦産業保健推進センターへの協力です。

一方、地域医療の面では、開放型病床(現在15床)をもつ地域中核病院として、丸亀市(人口8万人)のみならず中讃医療圏(人口32万数千人)の各医師会と地域連携を結び、また、市町村の健診、教育講演活動の支援も行っております。

医療の質を改善する活動の一環として、日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定証を平成12年1月に受領しました。それとともに、医療マネジメント(安全マネジメント、質のマネジメント、感染マネジメント、情報マネジメント、経営マネジメント、インフォームドコンセント、クリニカルパスとチーム医療など)の推進活動が加速しました。現在、平成15年度に総合的オーダリングシステムを導入すべく、着々準備を進めております。また、人材育成に貢献するために厚労省臨床研修病院の審査を受審し、平成12年3月に指定を受けました。平成16年度のスーパーローテート式卒後臨床研修本格実施に向けて試行中ですが、将来的にはピラミッド方式のレジデント制を確立したいと考えております。

最近、病院情報の発信のみならずコミュニケーションの重要性が世間一般で話題になっております。従来の香川労災病院雑誌の年1回の刊行に加えて、いわゆる customers(患者、連携先医療施設のスタ



香川 労 災 病 院

ップ、取引業者、地域住民)とのコミュニケーションの手段として季刊誌「いぶき」の発行と「労災病院公開講座」を平成12年から開始しました。ホームページに関しては、リアルタイムの情報提供と更新に課題を残しております。

労災病院群の経営母体である労働福祉事業団の改革は平成9年頃からすでに始まっておりましたが、現内閣の誕生により特殊法人改革の一環として改革が一気に加速しました。最終的に、「労災疾病について研究機能を有する中核病院を中心に再編する」として、独立行政法人に移行することが平成13年12月19日に閣議決定され、平成16年4月から独立行政法人化する法案が最近の臨時国会を通過しました(14年12月6日に可決・成立)。政策医療遂行責任、自立・経営責任、透明性確保・説明責任を問う重い決定ですが、一方では、われわれの行う政策医療が国の重要なライフラインの一つであるということが認めら

れたわけで、十分に効果的なインセンティブとして作用すると考えております。

以上、われわれは政策医療と地域医療に懸命に取り組んでおりますが、ローマは1日にして成らず、さらに継続して改善を積み重ねなければなりません。達成に向けて努力する職員の合い言葉は、C.R. ダーウィンが「種の起源」で述べた、“It is not the strongest of the species that survives, not the most intelligent, but the one most responsive to change”「生き残るのは最強の種でもなければ、英知にすぐれた種でもない、最も敏感に変化に対応する種である」。

擱筆するにあたり、岡山大学、岡山医学同窓会、岡山大学関連病院長会の発展をお祈り申し上げますとともに、今後とも諸先生の御指導、御鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

(平成14年12月14日)